

海水浴中のフロートによる 子どもの事故を防ぐために

■ 天候がよい、風が弱い

■ 遊泳可能な海水浴場

■ 離岸流に注意

■ 監視員・ライフセーバー常駐



□ ライフジャケットを正しく着用

□ 取っ手にしっかりつかまる

□ 目を離さない、手を離さない

□ 対象年齢を確認

□ 立ったり座ったりは慎重に

立体的なフロートは風の影響を受けやすい

海で事故が起きてしまったら…

海上保安庁 緊急通報用 電話番号

118番

「いつ」「どこで」「なにがあった」など
簡潔に落ち着いて通報してください。



本内容の詳細は、独立行政法人
国民生活センター公式サイトに
掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは
こちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人 国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2020年 7月発行

イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険 Number 356

フロートが沖に流された！ 海水浴中の子どもの事故が発生



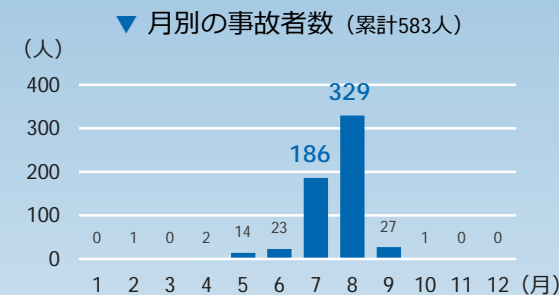
7月、8月は海水浴のシーズンです。海上保安庁によると、海での遊泳中の子どもの事故はこの時期に集中して発生しています。事故内容別にみると、溺水が約6割、帰還不能が約3割となっています。

海水浴では、フロートに子どもを乗せて遊ぶ光景がよく見られますが、フロートに乗った子どもが陸からの風により沖に向かって流され、海岸に戻れなくなる事故が発生しています。

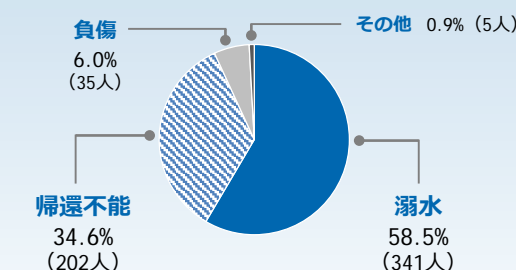
一度流されると自力での帰還は難しく大変危険です。事故を防ぐためのポイントを確認して、安全に海を楽しみましょう。

■ 海で遊泳中の子どもの事故

(14歳以下・平成21年～平成30年累計・海上保安庁提供)



▼ 事故内容別の事故者数 (累計583人)



フロートに関する事故事例

〔海上保安庁提供〕

ケース 1

事故者は、姉とフロート（動物型）に乗って遊泳していたが、姉が母親に呼ばれて浜に戻ったところ、事故者を乗せた同フロートが風に流されて帰還不能になるとともに、同フロート上で事故者が立ち上がった際にバランスを崩して事故者が落水した。

（事故発生：2018年8月、4歳、肺水腫の中等症）

ケース 2

事故者は、フロート（動物型）に乗って遊泳していたところ、徐々に沖に流されて帰還不能になった。

（事故発生：2018年7月、8歳、負傷なし）

ケース 3

事故者は、フロート（動物型）に乗り、事故者の姉が同フロートを掴んで遊泳していたが、水深が深くなり、足がつかなくなった姉が同フロートから手を離れたため、沖合に流され帰還不能になった。

（事故発生：2018年8月、8歳、負傷なし）

ケース 4

事故者は、母親と2人でフロート（動物型）に乗り、同フロートを父親がつかんだ状態で遊泳していたところ、強風で父親の手から同フロートが離れ、帰還不能になった。

（事故発生：2018年7月、5歳、負傷なし）

フロートと安全基準

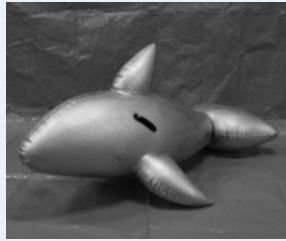
本資料での「フロート」は、水上で用いることを目的とする空気入れビニール製品の乗り物のうち、ボート、サーフ（板状のもの）及び浮き輪を除いたものを指しています。

日本では、業界団体によって安全基準が定められており、基準を満たすものにマーク又はラベルがついています。例えば、15歳未満を対象とした101cm未満のフロートにはST基準、101cm以上のフロートにはボート・波のり安全基準があります。

フロートが受ける風の影響

〔商品テスト〕

テスト対象商品

	サーフ型（比較対象）	海洋生物型フロート	鳥型フロート
外観			
対象年齢	3歳以上	3歳以上	3歳以上
サイズ [cm]	長さ 幅 高さ 114 × 46 × 8	長さ 幅 高さ 157 × 78 × 65	長さ 幅 高さ 130 × 102 × 99

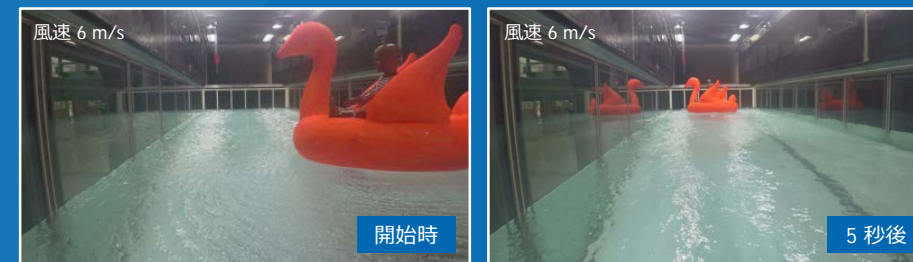
幼児ダミー



3・4歳児相当
身長 約100cm
体重 約15kg

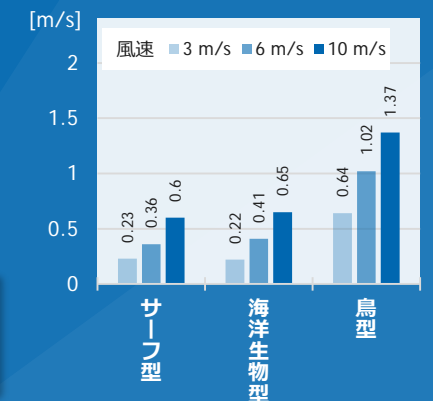
1 風により流される速さ

変動風水洞実験（風速：3, 6, 10 [m/s]）



立体的で風を受ける面積が広い鳥型フロートは、風により大きな力を受け、最も速く流されました。

▼ テスト対象が流される速さ



2 海水浴場での漂流実験

ダミーを乗せた鳥型フロートを、海岸から約5m離れた位置から漂流させ、約20m離れた時点から救助者が追いかけてきました。



風速2~4m/sの風が断続的に吹く中、フロートは約0.6m/sの速さで漂流し、110秒後には海岸から約50mの位置まで流されました。水深が深くなると、救助者の動きが遅くなり、フロートとの距離が広がりました。

● この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター 公式ウェブサイトの発表情報「海水浴での「フロート使用中の事故」に気を付けましょう！」で見ることができます。